

vol. 2337

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館  
TEL／(097) 556-2838 FAX／(097) 556-8998 MAIL／ohtwu@view.ocn.ne.jp

# 大分県高教組情報

【発行者】大野 真二

【印刷】(株) 佐伯コミュニケーションズ

【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



## 今号の掲載内容 (掲載順)

- 被爆80周年原水爆禁止世界大会・広島大会 参加報告
- 日教組第46次学校現業研究集会 参加報告
- 母と女性教職員の会 全国集会 参加報告
- 両性の自立と平等をめざす教育研究会 参加報告
- 九協第32回高校教育シンポジウム 参加報告

\*\*\*\*\*

## 被爆80周年 原水爆禁止世界大会・広島大会 参加報告

とき：8月4～6日(月～水) ところ：広島県

8月4日から6日まで広島の大会に参加してきました。1日目は、平和行進。2日目は、竹原市の忠海港から船に乗って約15分、大久野島に行きました。この島は、旧日本軍が極秘で作った毒ガス工場があったため「地図から消された島」と呼ばれていました。現在は、約600羽ものうさぎが棲息しており、観光地となっています。広島は原爆を投下された被害の面を言われますが、毒ガスは戦争に使わないとする国際条約を日本軍が無視して中国やアジア諸国に使用した加害の面があること、また、製造過程で犠牲になった若者もいることを知り、改めて「教え子を戦場に送るな!」と声をあげることが大切だと感じました。

写真は広島市の平和記念公園、大久野島のうさぎと毒ガス貯蔵庫です。

(別府翔青分会 林田健吾)



# 日教組第46次学校現業研究集会 参加報告

とき：7月27～28日（日～月） ところ：日本教育会館

7月27日（日）～7月28日（月）に日本教育会館で開催されました。

初日は神奈川県高等学校現業労働組合委員長、辰尾良二さんより「採用再開に向けたとりくみと現在の課題」という演題で基調講演をいただき、その後の分散会で各県のとりくみや課題を共有し、今後の現業の在り方について話し合いました。講演では神奈川の現業の合理化の過程を振り返り、新規採用がなくなってからも当局に現業の必要性を訴え続けたこと、障害者雇用の話があがった時に、それをすぐに現業の新規採用に結び付けるよう動いたことなどのとりくみが語られました。「粘り強さと瞬発力」と称したこれらのとりくみは、新規採用の無くなった他県にも力を与えてくれるものでした。

分散会では各グループで新規採用の再開や継続に向けて、活発な意見交換ができました。現業の合理化によって起こった課題を共有して当局に問いかけること。民間よりも学校にとって有益であることを実感してもらえるように、個々の技術を磨き、子どもとの関りを持ちながら、真摯に働くこと。また災害に対応できる職員としての位置づけを図って、なくてはならない専門職という強みを持つこと。など各県の現業職員の思いやとりくみを共有することができました。各々の思いは尽きず、2時間40分という設定時間が足りなくなるくらいでした。

2日目は各分散会の報告の後、日教組政策局副局長、早坂淳史さんを講師として迎え「任用の違いと課題」についての学習会を持ちました。その中で「定年延長が段階的に行われている今、まだ制度が固まっていない部分も多いので、自分たちの将来に有利に働くような仕組みを、今しっかりと考えて勝ち取っていくべきである」という事が強く訴えられ、新たな気づき、示唆のある学習会でした。

日教組の全国研に集まる全国の仲間は減ってきています。それでも、合理化の攻撃と戦いながら、それぞれの職場で日々自分の仕事に向き合う仲間たちの思いを、この場でしっかりと受け取ることが出来ました。

大分でも学校現業職員の退職不補充は続き、正規職員が消滅してしまう、という不安は年々現実味を帯びてきています。でもやはりどんな状況であっても、現場で必要とされる努力を忘れないように働き続けたいと改めて思い、力をもらった学習会でした。

（由布支援分会 足袋井紀子）

\*\*\*\*\*

# 母と女性教職員の会 全国集会 参加報告

とき：8月1日（金） ところ：日本教育会館

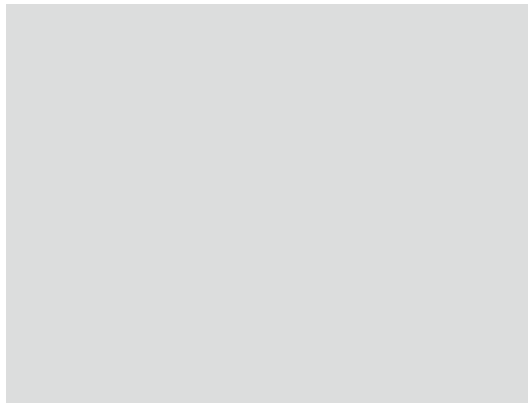
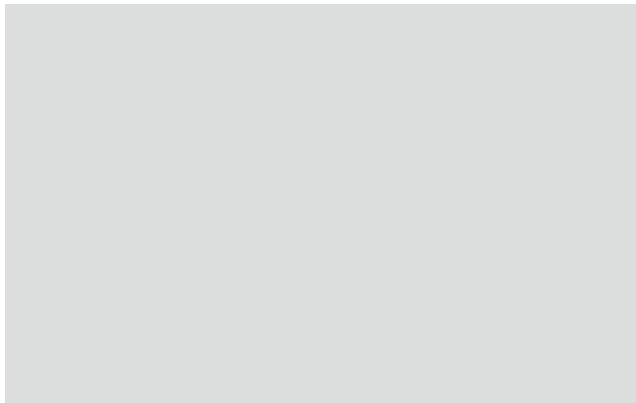
国境なき医師団（MSF）の一員で、主に紛争地で看護師として活動する白川優子さんの「紛争地に生きる人々の声」を、終始目が覚める（と言うか叩き起こされる）ような思いで聴いた。MSFも紛争地での医療活動も「だいたいイメージできる」気でいたのだが、私のそれは全く貧弱だった。現地の実態の過酷さ、それに伴う怒り、ジレンマ…、白川さんの熱に私の頭も心もヒリヒリした。知らなかったが、ジャーナリストが設立したMSFは、医療を通じて各地の実態を世界に知らしめることが使命であるらしい。この講演を機に寄付をすること、また講演の内容を誰かに伝える

ことも大事な支援活動（と言ってもらえた）、これが教職にあるものの使命なのだなと思う。もう一つ心に残ったのが白川さんの「進路選択」だ。7歳の時に見たMSFに感銘を受けたのは事実だが、だから看護師になったわけではなく、26歳で「再

会」して「思い出し」、走り出したのだと言う。なんだか運命的で感動的だった。

午後は「中高生」の分科会に参加。不登校や行き渋りの子に対する家庭、学校、地域の支援について、鳥取県と奈良県のレポートだった。不登校が全国で40万人とも言われる今、不登校の子にどう対応するかよりも、不登校にならなくてすむよう学校がどう変わるかを真剣に考える時、と言う参加者の声があった。2本のレポートも、「〇〇はこうあるべき」を緩やかに解体するとりくみで示唆に富んでいた。

(玖珠美山分会 茨木里香)



\*\*\*\*\*

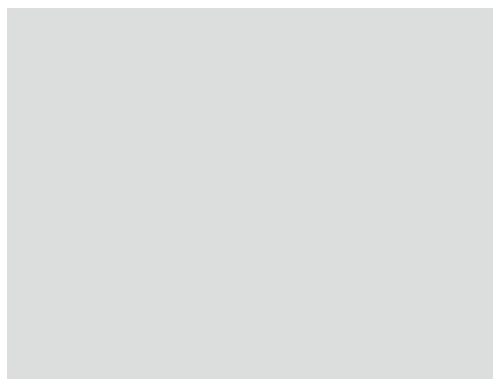
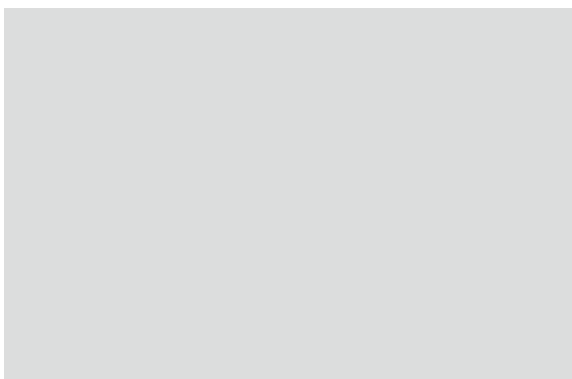
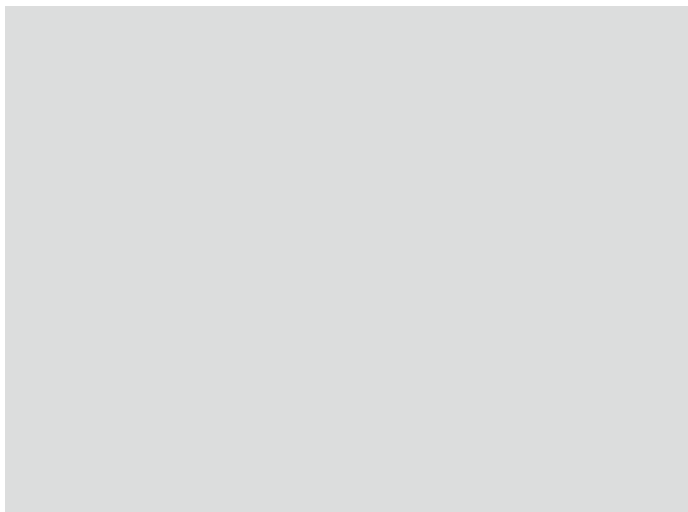
## 両性の自立と平等をめざす教育研究会 参加報告

とき：8月2日（土） ところ：日本教育会館

8月2日、日本教育会館で行われた、「両性の自立と平等をめざす教育研究会 ジェンダー平等教育をすすめよう」に参加してきました。大分高教組からは1人の参加でしたので、心細くもあったのですが、会場で大分県教組の20数人の方々と合流でき楽しく参加しました。

全体会では、「今こそ知りたい！人権とジェンダー平等に基づく包括的性教育とその実践」という福田和子先生の講演を拝聴しました。不勉強で恥ずかしいのですが、そこで初めて「包括的性教育」という言葉を知り、目を開かされた思いです。人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、幸福など幅広いテーマを含む、という点にこの言葉の重要性と今後、この言葉が正しく広がっていく必要性を感じました。

午後は「ジェンダー平等教育に必要な視点」の分科会に参加しました。相山女学園大学の虎岩朋加先生の話題提供を受け、グループで「身近な性差別」について具体例を出し



合い、その問題を先送りにしないために私たちに何ができるか、というテーマで協議をしました。

兵庫と愛知の先生と3人と一緒にしましたが、職場ではないけれども、地域や親族間で起こったことについて情報共有し、話し合う中で、やはり、学校教育で教わったことを子どもたちが各家庭に持ち帰ることで、世の中の意識を徐々に変えていくことができるのではないか、という結論に達しました。グループ協議により主体的にこの問題に向き合え、とても有意義な一日でした。

(大分南分会 藤井尚子)

\*\*\*\*\*

## 九協第32回高校教育シンポジウム 参加報告

とき：8月1～2日（金～土） ところ：鹿児島県教育会館

今回、九協第32回高校シンポジウムに司書部として参加させていただいた。初参加で学ぶことも多かった。特に大分県外の司書の様子についていまだに事務作業との兼務を教育委員会から命じられていたり、そもそも正規職員が全くいないにもかかわらず新規採用も行わない県があるという事実は、司書という立場が如何に弱いのか、県が司書という職を軽視しているのかを知るのに十分な情報だった。幸い大分県は、長年の活動で司書の専務化や社会人採用枠の獲得などを勝ち取ってきている。だからと言ってこの状況を当たり前のものと思わず、維持して更なる改善のための努力をしていかなければ、いつでも他県のような状況に陥る可能性があるのだと実感させられた。また、こうやって様々な権利を得ることで他県の司書も交渉が有利となるのであれば、それもまた交渉に力を入れる理由となると私は考えている。だからこそ、これからも粘り強く司書の権利を訴えていく必要があるのだと今回のシンポジウムを通じて学ぶことが出来た。

(別府支援分会 河津駿人)

8月1日、2日と鹿児島県で開催されました第32回高校教育シンポジウムに参加しました。私は第3分散会「情報化社会の教育・学校図書館」(14人)に参加しました。開催県である鹿児島高教組による事前アンケートの結果をもとに、参加した県(大分・鹿児島・熊本・沖縄・福岡)の参加者より、学校図書館、学校司書についての諸問題、それらに対する意見交換が行われました。

学校司書の事務室兼務問題(福岡県)、学校図書館の管理ソフトやパソコン自体にかかる費用の出どころの問題(熊本)、更なる図書費減額の流れ(鹿児島)、学校司書部組合員の減少により将来的に組織の維持が困難(大分)、離島の人員確保の問題(沖縄)、学校司書の非正規化・短時間勤務が一層進んでいる(宮崎のアンケート結果)といった問題に加えて、膨大な業務に対して人手が足りていないにもかかわらず採用試験が未実施の県がある、年齢制限と少ない採用人数で狭き門となっている事などが挙げられました。

大分県の学校司書の事務室兼務問題解消までの経緯や、今年度の社会人採用枠新設による従来の年齢制限の緩和には各県の注目が集まりました。どちらもまだまだ十分な状態ではない事を踏まえた上で、継続して交渉の場で訴え続ける事の大切さを分散会で共有しました。自身の価値観の共有と更新ができ、大変意義のある2日間でした。

(別府翔青分会 深藏剛)

### 教宣部より

○写真・感想等、提供して下さった皆様、ありがとうございました。今後も、行事に参加された方は、写真・感想等をメールにて提供くださいますよう、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

文章は200字程度をお願いします。

○各支部・単組・専門部・分会等での活動等も広報したいと思います。交流会や学習会等についても、写真・記事などを、ぜひご提供ください。

※写真はスマホ撮影のものでも大丈夫です。肖像権にはご注意ください。